

日中韓研究者会合（8月2日・上海）報告

江橋 崇

1 準備プロセス

2010年度の日中韓三国の国連グローバル・コンパクト参加企業ネットワーク間の連携会合は、8月2日、3日に中国上海市で開催された。

この会合は8月2日の研究者会合と、3日のローカル・ネットワーク会合で成り立っており、法政大学国連GC研究センターは前者の会合について、中国、韓国の研究者と共催し、また、後者にも参加した。

これらの会合については、2009年11月から準備が重ねられてきたが、とくに、2010年5月26日北京で開催した準備会合でのやり取りを経て、三国の関係者間でアジェンダに関する合意が形成された。

その後、GC研究センターは、会合における発言の準備として、翌2011年度に日本側の主宰で開催される会合についてGC-JNと協議し、両方で協力して開催することで合意を得た。

2 日中韓研究者会合の当日の進行

この会合について、会合のアジェンダと参加者のリスト（英文）を添付したので参照していただきたい。

この会合では、すでに実施した日中韓共同サーベイの結果について、日本側研究チームのメンバーである三浦聡名古屋大学教授と毛利克彦ICU大学教授から調査結果の分析評価の報告があり、また、日中韓の研究報告に関する江橋崇GC研究センター長のコメントがあった。さらに、山口明子GC研究センター客員研究員から日本におけるCSRの現状に関する報告があった。これら4報告の概要を示すために、各々についてこの報告に資料を添付した。

3 今後の運営のあり方

この研究者会合の学術的な意義については各方面から高く評価されており、引き続き2011年も日本側で運営して開催することで三国研究者間の合意を見た。その際には、GC研究センターは、とくにICU大学との協力を確保することにした。会合は、純粋に学術的な調査、研究の発表と討議の場とすることとして、万全を期するために、日本側から、2011年春季に中国（場所未定）で準備会合を開催するように提案し、了承された。

4 日中韓ラウンドテーブル会合（8月3日）報告

日中韓三国の国連GC参加企業連合会が主催するこの会合は、2009年11月

の第1回ソウル会合に引き続き、今回も第2回目の会合として行われた。会合のアジェンダ、参加者とも資料を添付したので参照されたい。なお、日本側は、この会合に主体的に取り組み、GC研究センターも協力して、以下の発言があった。

開会あいさつ：野村彰男、8月2日研究者会合の報告：江橋崇、フォーラム司会：有馬利男、同コメント：河口真理子、同報告：野村浩一、同コメント：菅原絵美、閉会あいさつ：後藤敏彦

また、この会合についても、2011年に日本で開催することで三国の関係者間での合意があった。